

## H23.10.31 設楽ダム魚類検討会 議事概要

〇日 時：平成23年10月31日（月） 13時00分～17時00分

〇議事概要：

表 H23.10.31 設楽ダム魚類検討会の議事概要

議事項目	議事内容	報告事項	委員の主な意見	意見に対する回答	
1.魚類検討会の経緯について	・魚類検討会の経緯について報告した。	・特になし	・特になし	・特になし	
2.野外実験について	・平成23年度における飼育・繁殖結果について報告した。	・繁殖実験の結果、3ペアの繁殖に成功した。 ・孵化率は悪く、多くの稚魚は得られなかった。 ・水槽に底砂を設置した。 ・繁殖時の行動記録から、繁殖行動の回数と産卵成功率に相関関係がある可能性が示唆された。	・昨年冬から同居した個体が産卵したのか。たまたま、良い状態の個体同士が繁殖に成功したのか。 ・繁殖前行動とは何を指すのか。 ・繁殖時の行動について、詳細な記録が欲しい。	・事務局：詳細の記録については、整理を行った後、魚類検討会後に各委員に送付する。 ・繁殖前行動は雄個体と雌個体の「からみ」を示している。	
		・放流実験のモニタリング調査結果について報告した。	・6月・10月調査ともに確認できなかった。 ・流速計を実験淵に設置した結果、他のネコギギ生息地と比べ洪水時の流速が速いことが分かった。	・流速が実験淵とモニタリング淵で大きく異なるというのは非常に興味深いため、今後も生息淵と非生息淵で比較していけると良い。 ・ハビタットモデルに洪水時のことを入れるのが重要である。	・事務局：現状のハビタットモデルについては、洪水時のパラメータを含めて、モデルの改良を今後検討する。
		・平成23年秋季放流実験の実施について協議した。	・放流個体が少ないことから、平成23年秋季放流は見送ることを提案した。 ・今後の放流実験を支川で実施することを提案した。	・支川での実験は非常に大きな提案である。一番の目的は、ダムにより水没する集団を移動させることの妥当性と根拠を得ることだと認識しているが、移植候補河川と同じ流況・対策の場所が良い。	・特になし
3.繁殖場実験について	・繁殖場実験計画（案）について報告した。	・野外での実施に向けた繁殖場実験計画（案）を提案した。	・印象として提案された繁殖場ユニットは小さい。枠の中に石を入れたとするとさらに影響がある。 ・繁殖場ユニットの目的は何か。 ・CCDカメラ利用の理由とは何か。取得するデータは何か。	・事務局：繁殖場ユニットの大きさ、材質、設置場所等については、魚類検討会委員の意見を踏まえ、再検討を行う。 ・事務局：エコアップのための情報取得が目的である。 ・CCDカメラでは、繁殖場内のネコギギの行動を記録する。	
4.支川のポテンシャルについて	・愛知県工事への対応について報告した。	・工事箇所の改善方針及び今後のスケジュールを提案した。 ・支川Aにおけるモニタリング調査計画を提案した。	・今の設置場所では水制がとばされる。緩やかな流れを作るのであれば、検討が必要である。 ・水制は今後のエコアップの例となるが、流されない水理計算は必要である。また、河積が確保されるか検討が必要である。	・事務局：現場では、できるだけ大きな石をおいて配慮してもらう予定である。水制の配置、平面的な位置関係については、流れの状況を見ながら助言頂きたい。	

議事項目	議事内容	報告事項	委員の主な意見	意見に対する回答
5.モニタリング調査結果について	・今年度実施したモニタリング調査結果を報告した。	・流域全体で当歳魚の確認が少なかった。	・特になし	・特になし
7.ダムサイト予定地周辺モニタリング調査について	・今年度実施したダムサイト周辺のモニタリング調査結果を報告した。	・ダムサイト周辺において、ネコギギが2淵で6個体採捕した。	・特になし	・特になし
6.ダム下流河川について	・既設ダム下流における調査結果を報告した。	・ネコギギの確認場所でウナギやギギも確認された。	・既設ダム下流河川でウナギとギギが多い理由を合理的に説明できるか。	・事務局：ウナギは放流している。ギギについては、支流の状況なども含めて今後解析する。
			・ギギがダム湖、堰上の湛水域に生息していないかを把握するため、魚類相を調べることが重要である。	・特になし
			・ギギとネコギギの違いを把握するため、既設ダム下流河川のデータは参考になる。	・特になし
7.今後の調査・検討計画(案)について	・今後の調査・検討計画(案)について報告した。	・ネコギギ保全に向けた対応方針を提案した。	・特になし	・特になし